**御船祭（熊野速玉大社例大祭）**

熊野三山の一つである熊野速玉大社では、10月16日に熊野川河口で年に1度の御船祭を行います。この船のお祭りは1800年以上も遡ることが出来、今でも同じ古代の伝統が残っています。この地域の長い造船の歴史をルーツに持つと考えられています。

祭りでは、熊野速玉大社に祀られている御神体を運ぶ神輿が、神幸船と呼ばれる真っ赤な美しい儀式用の船で古代の祈りの場所へと運ばれます。漕ぎ手は「ハリハリ踊り」として知られる踊りと祈りの歌を神に捧げます。神幸船に続いて11人ずつ乗り込んだ9隻の手漕ぎ船が続き、各船は熊野川流域の後に御船島を3周する計1.6キロを競いながら航行します。お神輿はその後に川沿いの儀式の場所で、神の休憩所である御旅所に到着します。

1964年、この祭りは日本の重要無形民俗文化財に指定されました。